

＜滋賀の大地＞

近江盆地は、東側の伊吹山地と鈴鹿山脈にかけて、1000m以上の山々が南北に並んでおり、一番高くなっています。

ついで、西側の比良・比叡山地が高く、ここでも南北に山々が並んでいます。

山地は、主に古生代・中生代の地層とこれを貫く花崗岩類とできています。古生代・中生代の地層では、石灰岩、チャート、砂岩、頁岩などの堆積岩が分布しています。この堆積岩が花崗岩に接するところでは、堆積岩が接触変成作用を受けてホルンフェルスや結晶質石灰岩（大理石）となっています。

湖東平野に点在する小高い山は溶結凝灰岩が主なもので、湖東流紋岩類と呼ばれています。このことから、滋賀県の中央部に大きなカルデラがあったことがわかります。

丘陵地は古琵琶湖層群と段丘れき層が主となっています。

古琵琶湖層群は、粘土・シルト・砂・礫からなり、粘土層やシルト層からは、貝の化石が多く産出されます。

また、土山町の鮎河層群からは海棲の貝化石が出てきます。約1500万年前、このあたりは内湾性の海であったことを物語っています。

